

Z303a 長野県の天文史料調査

陶山徹（長野市立博物館）

長野県では、2019年から「長野県は宇宙県」の活動として、長野県天文文化研究会を発足し、長野県の近世から現代にかけての天文学の研究を進めている。

近世天文学については、科研費「江戸のモノづくり」（平成14～17年度）で長野県内の科学史関連史料の調査が進められた。

しかし、個々の資料の内容については、いまだ不明な点が多く、詳細な調査が必要である。

近代天文学で扱うべきテーマとして、長野県内のアマチュア天文家の活躍を考えている。

1920年代に三澤勝衛と田中静人は、継続的な太陽観測を始めている。彼らの観測は、日本の太陽観測の嚆矢であり、近代天文学において重要な位置を占めている。

本発表では、上で述べたような、長野県内の天文史料調査の現状について報告する。